

アンギオ検査とは

アンギオ検査とは、カテーテル（細い管）を腕や足のつけ根の動脈から心臓や脳、腹部臓器、および四肢の血管まで挿入し、造影剤を使用して血流や腫瘍の分布を見たり、血管の狭窄や閉塞を知るための検査です。

検査の必要性について

アンギオ検査は、患者さんの被ばくによるリスクよりも検査による病気の発見、病状の把握や治療による有益性が認められる場合に施行されます。

線量の最適化について

最適な条件で検査を行い、放射線被ばくを必要最小限にすることを実践しています。

小児は更に体格にあった撮影条件を用い、より一層の被ばく低減に努めています。

放射線被ばくの影響について

受けた検査の放射線が少量の場合、遺伝子が持つ修復機能で回復し、放射線は蓄積することはありません。放射線検査での放射線量が増えるほど発がんや遺伝的影響の発生確率が高くなりますが、1回の検査で受ける放射線量100mSv未満であれば、被ばくは非常に少なく、リスクがあるかどうか明確にできないくらいその影響はとても小さいと考えられます。

アンギオ検査の被ばく線量について

アンギオ検査の被ばく線量は、検査内容や体型により大きく異なります。血管内治療では、透視時間や撮影回数が多くなり、特に問題になる皮膚表面線量は、3Gyを超えることがあります。その際は、治療後経過観察をさせていただきます。

X線を用いた検査治療は、患者さんの被ばくによるリスクよりも検査による病状の把握や血管内治療による有益性が認められる場合に施行されます。

しきい線量(Gy)	症 状	発症までの時間
2	早期一過性紅班	2～24時間
3	一過性脱毛	3週以内
6	主紅班反応	1.5週以内
7	永久脱毛	3週以内
14	乾性落屑	4週以内
15	晩期紅班	8～10週
18	湿性落屑	4週以内
24	二次性潰瘍	6週以降

当院での被ばく低減の取り組みについて

当院は、被ばく低減施設認定を認定されており、関連学会のガイドラインをもとに最適な条件で検査を実施し、日々被ばく低減に努めています。